

令和7年度

板橋区立学校経営計画表・自己評価表・学校関係者評価表

学校教育目標	○健康で心豊かな子ども    ○よく考え工夫する子ども    ○ねばり強くやりぬく子ども    ◎進んで協力する子ども
目指す学校像	落ち着いた学校、通ってよかった・通わせてよかった・務めてよかったと思える、愛される学校
目指す児童像	「かがやけ！ 志一の子」（かながえる子    がんばる子    やさしい子    けんこうな子）
目指す教師像	「気付き」「考え」「実践する」教職員

領域	中期経営 目標	短期経営 目標	具体的方策	評価指標・評価基準		取組(努力)指標評価		成果指標評価		分析コメント	改善策
				取組(努力)指標	成果指標	中間	年間	中間	年間		
学力の 向上・ 定着	①児童の、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着 ②児童の、課題を主体的・協動的・探究的に解決する力の育成	①児童の、読む・書く・考える・計算する力の定着 ②各教科等の指導における、主体的に学び、協動的に自らの考えを深める力の育成	①基礎学力定着のための学力推進週間及び全学年補習教室の実施 ①九九や計算力の定着に向けた「九九マスター」の取組 ①モジュール学習を通した、漢字・読書・言葉等の語彙の確実な定着	4 補習教室 各学級実施 年間20回以上 3 補習教室 各学級実施 年間10～15回 2 補習教室 各学級実施 年間5～9回以上 1 2の指標に満たない	4 東京ベーンシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率8割以上 3 東京ベーンシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率6～8割 2 東京ベーンシック・ドリル 第5・6学年算数 診断テストC 得点率5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	2	3	補習教室「がんばりタイム」を定期的に行い、学習支援が必要な児童に対して、夏季休業日等も含め、個別指導を充実させた。5年生の診断テストCの結果は1学期の結果と変わらず6.5割、6年生の結果は1学期の結果から大きくアップし、7割だった。	○日々の授業における、学習支援が必要な児童への継続的な働きかけ・支援 ○「がんばりタイム」における更なる指導の充実 ○「すららドリル」等を活用した、児童個々に応じた学習の積み重ね
			①清水図書館や図書ボランティア、近隣幼稚園との連携による読書活動の推進 ①保護者による読み聞かせ及び委員会児童、教員による読み聞かせの実施	4 計画した全ての取組を実施 3 計画した全ての取組9割以上実施 2 計画した全ての取組を8割以上実施 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート「本を読むのは好きですか」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート「本を読むのは好きですか」肯定的評価6～7割 2 11月児童アンケート「本を読むのは好きですか」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	2	4	3	3	図書担当を中心に、全教員で計画案を全て実施することができた。児童アンケートの結果は、昨年度よりもアップし、肯定的評価は7割であった。来年度は8割をめざす。	○学校経営方針への、「読書活動の充実」の位置付けの継続 ○本好き児童を増やすための、図書委員児童発案企画の実施
			②校内研究における「個別最適×協働」型の授業デザインの実践 ②「授業スタンダードS」等に基づいた、ITO「習得・考え・表現」を繰り返す授業実践	4 全学級での実施 3 全学級9割以上の学級で実施 2 全学級8割以上の学級で実施 1 2の指標に満たない	4 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の(小学生)能力値8項目中、全国平均以上6項目以上 3 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の(小学生)能力値8項目中、全国平均以上4～5項目以上 2 リーディングスキルテスト基礎的読解力の6分類の(小学生)能力値8項目中、全国平均以上2～3項目以上 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	校内研究等でめざした授業デザインを意識した実践に力を置くことで、成果指標としたリーディングスキルテストで良好な結果を得ることができた。特に文と非言語情報(図表など)を正しく対応させる力「イメージ同定」は全国平均を大きく上回ることができた。	○基礎的読解力の育成を意識した、授業改善や研修の実施 ※特に、課題となった、文の基本構造を理解する力「係り受け解析」や2つの文の意味が同一かを判断する力「同義文判定」の内容に焦点を当てた内容にする。
			○家庭・地域・近隣学校・関係機関と連携した取組の充実 「地域とともにある学校」「学校を核とした地域コミュニティづくりの推進」 ①コミュニティ・スクール推進に向けた全教職員の意識高揚及び行動連携 ②郷土を愛し、地域に貢献する人の育成	①iCSへの教職員参加～iカリキュラムカレンダーを活用した熟議 ①iCS委員と代表委員児童による熟議 ①iCSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①iCS便りを活用した行動連携 ②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部(学校おうえんたん)等との連携・協働	4 具体的方策の全実行 3 具体的方策の2～3点実行 2 具体的方策の1点実行 1 2の指標に満たない	4 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価8割以上 3 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割 2 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	副校長が進行管理・調整をし、全教員で計画案を全て実施することができた。特にiCS委員と代表委員児童による話し合いを通して、教職員及び児童のコミュニティ・スクールとの連携意識が高まったと考える。教職員アンケートの結果も肯定的評価は約9割と良好であった。
連携・ 協働の 充実	○家庭・地域・近隣学校・関係機関と連携した取組の充実 「地域とともにある学校」「学校を核とした地域コミュニティづくりの推進」 ①コミュニティ・スクール推進に向けた全教職員の意識高揚及び行動連携 ②郷土を愛し、地域に貢献する人の育成	①コミュニティ・スクール推進に向けた全教職員の意識高揚及び行動連携 ②郷土を愛し、地域に貢献する人の育成	①iCSへの教職員参加～iカリキュラムカレンダーを活用した熟議 ①iCS委員と代表委員児童による熟議 ①iCSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①iCS便りを活用した行動連携 ②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部(学校おうえんたん)等との連携・協働	4 具体的方策の全実行 3 具体的方策の2～3点実行 2 具体的方策の1点実行 1 2の指標に満たない	4 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価8割以上 3 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割 2 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	副校長が進行管理・調整をし、全教員で計画案を全て実施することができた。特にiCS委員と代表委員児童による話し合いを通して、教職員及び児童のコミュニティ・スクールとの連携意識が高まったと考える。教職員アンケートの結果も肯定的評価は約9割と良好であった。	○iCS委員と教職員、iCS委員と代表学年児童が熟議を行う会の継続実施 ※熟議内容は、事後の朝会等で全児童へ伝達等する。また、その際出た意見を元に委員活動等の充実を図る。
			①iCSへの教職員参加～iカリキュラムカレンダーを活用した熟議 ①iCS委員と代表委員児童による熟議 ①iCSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①iCS便りを活用した行動連携 ②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部(学校おうえんたん)等との連携・協働	4 具体的方策の全実行 3 具体的方策の2～3点実行 2 具体的方策の1点実行 1 2の指標に満たない	4 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価8割以上 3 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割 2 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	副校長が進行管理・調整をし、全教員で計画案を全て実施することができた。特にiCS委員と代表委員児童による話し合いを通して、教職員及び児童のコミュニティ・スクールとの連携意識が高まったと考える。教職員アンケートの結果も肯定的評価は約9割と良好であった。	○iCS委員と教職員、iCS委員と代表学年児童が熟議を行う会の継続実施 ※熟議内容は、事後の朝会等で全児童へ伝達等する。また、その際出た意見を元に委員活動等の充実を図る。
			①iCSへの教職員参加～iカリキュラムカレンダーを活用した熟議 ①iCS委員と代表委員児童による熟議 ①iCSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①iCS便りを活用した行動連携 ②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部(学校おうえんたん)等との連携・協働	4 具体的方策の全実行 3 具体的方策の2～3点実行 2 具体的方策の1点実行 1 2の指標に満たない	4 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価8割以上 3 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割 2 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	副校長が進行管理・調整をし、全教員で計画案を全て実施することができた。特にiCS委員と代表委員児童による話し合いを通して、教職員及び児童のコミュニティ・スクールとの連携意識が高まったと考える。教職員アンケートの結果も肯定的評価は約9割と良好であった。	○iCS委員と教職員、iCS委員と代表学年児童が熟議を行う会の継続実施 ※熟議内容は、事後の朝会等で全児童へ伝達等する。また、その際出た意見を元に委員活動等の充実を図る。
			①iCSへの教職員参加～iカリキュラムカレンダーを活用した熟議 ①iCS委員と代表委員児童による熟議 ①iCSの取組に係る趣旨及び内容についての教職員周知 ①iCS便りを活用した行動連携 ②生活科・総合的な学習の時間等の授業における、学校支援地域本部(学校おうえんたん)等との連携・協働	4 具体的方策の全実行 3 具体的方策の2～3点実行 2 具体的方策の1点実行 1 2の指標に満たない	4 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価8割以上 3 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価6～8割 2 11月教職員アンケート「ics委員会熟議や活動の理解」肯定的評価5～6割 1 2の指標に満たない	3	4	4	4	副校長が進行管理・調整をし、全教員で計画案を全て実施することができた。特にiCS委員と代表委員児童による話し合いを通して、教職員及び児童のコミュニティ・スクールとの連携意識が高まったと考える。教職員アンケートの結果も肯定的評価は約9割と良好であった。	○iCS委員と教職員、iCS委員と代表学年児童が熟議を行う会の継続実施 ※熟議内容は、事後の朝会等で全児童へ伝達等する。また、その際出た意見を元に委員活動等の充実を図る。
気付き 考え 実践する 教職員	○「気付き」「考え」「実践する」学校・教職員をめざした、教職員の働き方改革の推進 ②学校業務の質の向上及び精選、業務の平準化	①1か月あたりの時間外勤務45時間以内の実現(1日あたり時間外勤務2時間15分が目安) ②学校業務の質の向上及び精選、業務の平準化	①出勤退勤時間管理 ①定時退勤日の設定(毎週水曜日:18時までの退勤)と徹底、17時30分までの電話対応の徹底 ①学期始・終の午前授業の実施(通年)、土曜授業実施後の振替休業日の設定(年4回) ②各教員及び校務分掌各々が考え・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上(事務作業、児童対応等の分担) ②ICT機器を活用した校務改善	4 9割以上の教職員による取組の徹底 3 8割以上の教職員による取組の徹底 2 7割以上の教職員による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、6割減少 3 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、5割減少 2 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、4割減少 1 2の指標に満たない	3	4	2	4	取組は確실행ったが、一部教員3名が時間外勤務45時間を超えることが多い。成果指標も達成したが、45時間以上を超えてしまう教員への働きかけと仕組みづくりが必要である。ただ、残業過多でメンタルヘルスになったり、勤務ができなかったりすることはない。	○スクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティア、副担任を活用した支援体制の充実 ○学校行事等の時期の分散 ○会議等の精選 ※特に、不定期に複数回行われることが多い学年会の実施を週1回程度にする。
			①出勤退勤時間管理 ①定時退勤日の設定(毎週水曜日:18時までの退勤)と徹底、17時30分までの電話対応の徹底 ①学期始・終の午前授業の実施(通年)、土曜授業実施後の振替休業日の設定(年4回) ②各教員及び校務分掌各々が考え・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上(事務作業、児童対応等の分担) ②ICT機器を活用した校務改善	4 9割以上の教職員による取組の徹底 3 8割以上の教職員による取組の徹底 2 7割以上の教職員による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、6割減少 3 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、5割減少 2 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、4割減少 1 2の指標に満たない	3	4	2	4	取組は確실행ったが、一部教員3名が時間外勤務45時間を超えることが多い。成果指標も達成したが、45時間以上を超えてしまう教員への働きかけと仕組みづくりが必要である。ただ、残業過多でメンタルヘルスになったり、勤務ができなかったりすることはない。	○スクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティア、副担任を活用した支援体制の充実 ○学校行事等の時期の分散 ○会議等の精選 ※特に、不定期に複数回行われることが多い学年会の実施を週1回程度にする。
			①出勤退勤時間管理 ①定時退勤日の設定(毎週水曜日:18時までの退勤)と徹底、17時30分までの電話対応の徹底 ①学期始・終の午前授業の実施(通年)、土曜授業実施後の振替休業日の設定(年4回) ②各教員及び校務分掌各々が考え・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上(事務作業、児童対応等の分担) ②ICT機器を活用した校務改善	4 9割以上の教職員による取組の徹底 3 8割以上の教職員による取組の徹底 2 7割以上の教職員による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、6割減少 3 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、5割減少 2 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、4割減少 1 2の指標に満たない	3	4	2	4	取組は確실행ったが、一部教員3名が時間外勤務45時間を超えることが多い。成果指標も達成したが、45時間以上を超えてしまう教員への働きかけと仕組みづくりが必要である。ただ、残業過多でメンタルヘルスになったり、勤務ができなかったりすることはない。	○スクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティア、副担任を活用した支援体制の充実 ○学校行事等の時期の分散 ○会議等の精選 ※特に、不定期に複数回行われることが多い学年会の実施を週1回程度にする。
			①出勤退勤時間管理 ①定時退勤日の設定(毎週水曜日:18時までの退勤)と徹底、17時30分までの電話対応の徹底 ①学期始・終の午前授業の実施(通年)、土曜授業実施後の振替休業日の設定(年4回) ②各教員及び校務分掌各々が考え・実践する、働き方改革資する取組の充実 ②副担任制の質的向上(事務作業、児童対応等の分担) ②ICT機器を活用した校務改善	4 9割以上の教職員による取組の徹底 3 8割以上の教職員による取組の徹底 2 7割以上の教職員による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、6割減少 3 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、5割減少 2 時間外勤務45時間以上 人数割合 6月、11月と比して、4割減少 1 2の指標に満たない	3	4	2	4	取組は確실행ったが、一部教員3名が時間外勤務45時間を超えることが多い。成果指標も達成したが、45時間以上を超えてしまう教員への働きかけと仕組みづくりが必要である。ただ、残業過多でメンタルヘルスになったり、勤務ができなかったりすることはない。	○スクールサポートスタッフ、エデュケーションアシスタント、ボランティア、副担任を活用した支援体制の充実 ○学校行事等の時期の分散 ○会議等の精選 ※特に、不定期に複数回行われることが多い学年会の実施を週1回程度にする。
豊かな 関わり・ 規範意識の 醸成	○自尊感情・自己肯定感の高揚及び、社会規範の育成 ○基本的生活習慣の定着及び、相手を尊重する気持ちの醸成	①児童が主体的に人と関わり、より良い人間関係を構築できる力、人のために役立つ生きる「人間力」の向上 ②誰一人取り残さないための居場所づくり、誰もが安心して学ぶことができる学校生活の実現	①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
豊かな 関わり・ 規範意識の 醸成	○自尊感情・自己肯定感の高揚及び、社会規範の育成 ○基本的生活習慣の定着及び、相手を尊重する気持ちの醸成	①児童が主体的に人と関わり、より良い人間関係を構築できる力、人のために役立つ生きる「人間力」の向上 ②誰一人取り残さないための居場所づくり、誰もが安心して学ぶことができる学校生活の実現	①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
豊かな 関わり・ 規範意識の 醸成	○自尊感情・自己肯定感の高揚及び、社会規範の育成 ○基本的生活習慣の定着及び、相手を尊重する気持ちの醸成	①児童が主体的に人と関わり、より良い人間関係を構築できる力、人のために役立つ生きる「人間力」の向上 ②誰一人取り残さないための居場所づくり、誰もが安心して学ぶことができる学校生活の実現	①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施
			①縦割り遊び等の異学年交流の充実 ①全学級「挨拶」運動の実施 ①いじめ防止に係る授業実践及び校内研修の実施 ①各学年における、「落ち着いた学校生活」を実現するための目標設定 ②WEBQUIによる学級集団の状態及び、ふれあいアンケートによる、児童の状況の把握を通した、学習環境の改善 ②校内委員会による不登校児童への組織対応の充実 ③教室に入れない児童への配慮の充実	4 全教職員による取組の徹底 3 全教職員9割以上による取組の徹底 2 全教職員8割以上による取組の徹底 1 2の指標に満たない	4 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価8割 3 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価7割以上8割未満 2 11月児童アンケート項目「ルールを守り、落ち着いて生活」肯定的評価6割以上7割未満 1 2の指標に満たない	4	4	4	4	全教職員で計画した取組を確実に行った。児童アンケートの結果もおおむね良好であった。	○課題改善に向けた、児童会主体による取組の提案と実施 ○アンケート結果を生かした、全校児童への働きかけと、仕組みづくりと実施

学校関係者評価	総括評価【ABC】	分 析 コ メ ン ト
	A	・子供の、1年間の成長は大きい。2年生は思考力等が高まっていた。AIの活用が今後鍵になる。そのためにAIを使いこなせる思考力を高めてほしい。ただ、AIに頼り切るのはどうかと思う。感性を高めることや自分たちで考えて対応することを大切にしてほしい。 ・ICTの活用について、子どもたちはブラインドタッチができるようになっていく。パソコンを活用した授業を増やしてほしい。また、関連して情報モラル能力も高めていくことが必要である。 ・ICTを活用しながら、教職員のワークライフバランスを踏まえた学校経営を今後も進めてほしい。 ・ICTを活用した授業、体験や活動を大切に授業をうまく組み合わせながら、授業を進めていかなければいけないと感じている。 ・音楽を使いながら授業を効果的に進めている授業があった。我々の時代には無い進め方で斬新である。